

会館の名称が決定しました 「神撫 100 周年記念会館 (愛称) —Astra Hall—」

名称のご応募、人気投票への多数のご参加、ありがとうございました

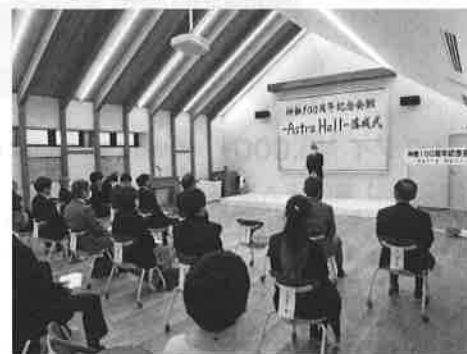


(神撫 100 周年記念会館 —Astra Hall— の落成)

ついに念願の母校創立 100 周年の記念会館が完成し、4 月 17 日に落成式が執り行われました。開会直後に正式名称が「神撫 100 周年記念会館」、愛称を「Astra Hall」と決定したことが発表され、(名称の決定についての詳細は神撫会HP参照)、次いで音楽部のオープニングにふさわしい記念演奏と吹奏楽部のファンファーレの後、テープカットが行われました。その後玉田敏郎兵庫県立長田高等学校創立 100 周年事業推進協議会会長から山根尚校長に寄贈目録が、石井孝一企画調整委員会委員長から妹尾洗季生徒会長に鍵が手渡されました。また、設計者である宇賀亮介さん(高 4 1 回生)、施工者である溝口建設(株)溝口昌宏社長に対して



感謝状が贈られたほか、名称提案者である西馬正寿さん、山本和浩さん(いずれも高 3 3 回生)、檜尾美和さん(高 7 2 回生)に表彰状と記念品が贈られました。なお、名称を記載した一文字の作成は書道部の森嶋珠希さん、司会は谷口享子さんに務めて頂いたほか、本当に大勢の母校関係者の手による心温まる落成式となりました。



(建設の経緯)

母校創立 90 周年の数年前から同窓会館建設構想が神撫会の中で起こっていました。神戸高校や兵庫高校には同窓会館があるのになぜ長田にはないのか、同窓会館を是非建設しよう。」という声はもっと以前からありましたが、具体的な検討は 100 周年ということが意識され出したこの頃から開始されました。神撫会内に企画委員会を組織し、いろんな角度から検討が重ねられました。この中から原則的な考え方が固まってきました。会館建設に当たっては将来に負担を残すようなことはしない。したがって寄付金の集まる状況に応じた建物とする。このため、その時点で有している過去の寄付金、今後確実に確保できる見込みの寄付金の額と、他校で最も低価格で建設できた会館の状況を確認し、確実に建設が可能と考えられた段階で建設を目標とすることとしました。

建設に当たっては絶対に使われない箱物にはしない、そのためには単に同窓会館機能を備えるだけではなく、現役生に利用されることを中心に考えることとしました。そこから「神戸三中・長田高校の歴史を保存展示するもの」、「愛校心を高揚するもの」、「在校生も利用できる、利用率の向上が見込まれるもの」とすることとしました。100 周年記念会館建設を目標とすることを神撫会として決定し、学校、PTA 側とも協議し、実行委員会として 90 周年記念事業の趣意書に、100 周年記念事業の中心として同窓会館の建設を計画する旨を明記しました。

その後、本格的な事業展開を推進するため、神撫会の役員体制を強化し、学校、PTA を加えた協議会を規約策定の上設立し、神撫会の企画委員会は協議会の企画調整委員会となり建設推進に当たって来ました。そして建設予定価格を 1 億 5 千万円と定め、今回、過去の寄付金、神撫会の内部留保金(一般寄付金等)も含め、無借金でほぼ同額でその落成を見ました。途中オリンピック需要等で建設費が急騰しましたが機能の変更はせず、鉄骨造から木造へと変更することで対応しました。



(「Astra Hall」の特色と今後の展開への期待)

設計者の宇賀さんは、100 年分の卒業アルバムから各回生の写真を引き出し壁面に掲示したり、校歌の作詞原本や昔の学園新聞等貴重な資料を展示したりと貴重な歴史を紹介してくれています。



また、子守康範広報委員会委員長の協力を得てアーカイブ映像も作成し、野球部の甲子園出場の時の様子等今も感動を伝えてくれる情報にも触れることができます。建物の機能としては学校側から要請の強かった 90 人規模の教室や会議室として使えるとともに、1、2 階とも仕切りを無くし多様な活動に使えるようにしています。また、キッチンやくつろげるテーブルなども用意し、同窓生のラウンジ的機能も備えています。このように当初の建設目標は達成しているように思えます。しかし、歴史はこれからも積み重ねていくことになります。どのような歴史を刻むかは在校生はもちろん卒業生を含めた同窓生の活躍にかかっています。よく利用されるかどうかは寄贈を受けた学校側の運用方法や主として在校生の利用状況によります。100 周年事業のテーマである「躍動する人間力“智徳体”の創造」の一翼を担い、「神撫教育が伝え続けるもの」を感じ取ってもらえる「Astra Hall」になれば幸いです。

(企画調整委員会委員長 石井 孝一)